

調書番号
2

事業名 芸術文化推進事業費 財務コード (事業) 284302

細事業名 巡回児童劇場開催費(委託)

担当部課室 企画県民 部 生涯学習文化 課 文化振興 担当(内線) 1661

事業の概要

実施期間 始期 548 年度 ~ 終期 年度

実施主体 県(委託)

事業の目的	誰(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	県内の国公立・私立小学校の児童	生の優れた児童演劇を鑑賞することができる	豊かな情操の涵養 芸術文化活動への関心づくり

事業の内容 主に 24年度	(社)日本児童演劇協会に委託し、県内小学校の体育館等で児童演劇を巡回公演する。 必要経費 535,500円×10公演=5,355,000円 うち県費支払額 1,992,500円 負担の内訳(1公演あたり) ・(社)日本児童演劇協会 236,250円 ・県 199,250円 ・開催校等負担金 100,000円 (社)日本児童演劇協会は平成25年4月1日 公益社団法人日本児童青少年演劇協会へ移行	平成24年度巡回児童劇場実施状況		
		開催日	開催小学校名	上演作品名
		6月11日	小菅村立小菅小学校	劇団みんわ座『とべないホテル・白いりゅう黒いりゅう』
		6月12日	北杜市立武川小学校	
		6月13日	笛吹市立石和北小学校	
		6月14日	笛吹市立石和南小学校	
		6月15日	北杜市立須玉小学校	オペレッタ劇団としび『金剛山のつらいじ』
		6月18日	北杜市立高根東小学校	
		6月19日	北杜市立小淵沢小学校	
		6月20日	笛吹市立一宮西小学校	
		6月21日	富士河口湖町立小立小学校	
		6月22日	甲斐市立敷島南小学校	

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	公演回数	10回	10回	10回	10回	活動指標 目標設定の考え方 年10回の開催を目標としている。	
	活動指標達成率(実績値/目標値)		100.0%			データの出典等 予算見積書	
成果指標	成果指標達成率(実績値/目標値)					成果指標 目標設定の考え方 データの出典等	
	決算額、予算額(千円)	2,993		2,993	2,993	0	成果指標によらない成果
	うち一財額	1,993		1,993	1,993	0	巡回児童劇場を実施した学校からは子ども達の反応が良かったことや、生の舞台の良さを味わえたことなどの感想が寄せられている。
	所要時間(直接分)	100 時間		105 時間	105 時間	0 時間	また担当職員も現地に確認に行った際に、子ども達が舞台に引き込まれる様子を見、素直な感想発表を聞いているなど、本事業が子ども達の心を豊かにし、芸術文化活動への関心へつなげるために役立っていると思われる。
	所要時間(間接分)	0 時間		0 時間	0 時間	0 時間	
	所要時間計	100 時間		105 時間	105 時間	0 時間	
	人件費(1人単:千円 @2,050円×所要時間)	205		215	215	0	

これまでの事業の見直し・改善状況

平成16年度までは開催校から経費の一部を負担金として徴収していたが、本事業は豊かな心を育む学校教育としての重要な役割も一部担っており、県と市町村との教育に対する役割分担明確化の観点から、H17年度から負担金を増額(1校あたり5万 10万)し、学校設置者である市町村の負担とした。

活動量と成果の判断(平成24年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方
H24年度 活動指標 達成率		数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方
H24年度 成果指標 達成率		必ず記入すること
	b	巡回児童劇場を実施した学校からの感想・意見は「上演舞台に感動した」、「舞台裏を見て、創作の工夫を知った」、「今後の子ども達の発表に役立つ」、などすべて実施して良かったというものが寄せられている。また担当職員も現地に確認に行った際に、いずれの会場でも子ども達が感動している様子を目の当たりにしており、本事業が子ども達の芸術文化活動への関心やそのきっかけづくりの一助となっている。こうしたことから、普段なかなか目にすることができない、生の優れた舞台芸術を間近で鑑賞することにより、子ども達の豊かな情操の涵養と健やかな成長に寄与していると考えられ、意図した成果をほぼ上げている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

見直しの必要性(平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)

見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
有	個人的に生の公演を見る機会を持てる児童もいるが、親が芸術文化に無関心であったり、経済的に厳しかったりする児童にとっては、県が実施することにより公演を見る機会が与えられる。県内の児童に生の優れた児童演劇を鑑賞することができる機会を提供し、豊かな情操の涵養と芸術文化活動への関心づくりという所期の目的を達成していると思われる。対象児童は年々同じではないので今後も続けていく必要がある。 昨年の見直しでより多くの学校に巡回できるよう、最近申請のない市町村に事業のPRを行い、新たな学校でも公演を行ったが、まだ不十分であることから、今後はさらに実施校の状況を紹介しながら事業についてのPRを行い、これまで巡回していない市町村に個別に働きかけ、より多くの学校に巡回できるよう取組を強化していく。 なお、対象校が10校に限られているため、学校からの応募が多ければ選考から漏れる学校も多くなる。バランスを見ながら市町村へのPRを行っていく。	i

・「以外の判断項目」の欄

必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
有	本事業は過去一定の成果を上げてきたものと考えますが、事業開始後40年が経過する中で、多様な観劇機会の拡大など子どもたちをめぐる環境が大きく変化し、また、近年、実施校がほぼ特定の市町村に限定される傾向にあるなど、県として本事業を継続する必要性は薄れてきたことから、今後、芸術文化振興施策の見直し検討を進めることとし、本事業は廃止とする。	d

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

見直しの方向(平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
廃止	本事業は過去一定の成果を上げてきたものと考えますが、事業開始後40年が経過する中で、多様な観劇機会の拡大など子どもたちをめぐる環境が大きく変化し、また、近年、実施校がほぼ特定の市町村に限定される傾向にあるなど、県として本事業を継続する必要性は薄れてきたことから、今後、芸術文化振興施策の見直し検討を進めることとし、本事業は廃止とする。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止(施設については「譲渡」)」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、「見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しが無い場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。

自主点検シート(事業の内容及び所要時間)に関する附属資料【様式2】

所属名:生涯学習文化課

細事業名:巡回児童劇場開催費

調書番号:2

事業の内容を 細分化した 業務名	具体的な業務 プロセス(手順)	業務の 時期 (フロー)	H24	H25	H26	縮減等 B - A	具体的な業務の 見直しの内容	見直しに至った理由等 (または見直しなしの理由等)
			所要 時間 (h)	所要 時間 (h) A	所要 時間 (h) B			
1 巡回児童劇場 開催	委託契約の締結	4月	10	10	0	10	平成25年度で事業廃止	
	打合会の開催	5月	10	10	0	10		
	開催確認	6月	40	40	0	40		
	委託料支払	7月	5	5	0	5		
	開催市町村から の収入	7月	5	5	0	5		
	開催希望調査 (翌年度分)	1月	15	15	0	15		
	開催校の内定	3月	20	20	0	20		
(小計)			105	105	0	105		
2						0		
						0		
						0		
						0		
						0		
						0		
						0		
						0		
(小計)			0	0	0	0		
3						0		
						0		
						0		
						0		
						0		
						0		
						0		
						0		
(小計)			0	0	0	0		
所要時間 (計)			105	105	0	105		

(留意事項)

- 1 事業を細分化した業務名は、事務事業を構成する業務ごとに細分化し、その業務名を記載すること。
- 2 具体的な業務プロセス(手順)は、できる限り多くのプロセスを記載すること。
- 3 業務の時期は、業務のフローがわかるように具体的な業務プロセスごとに記載すること。(毎月、四半期ごとの業務等は、その1サイクルの期間を記載すること。)
- 4 各年度の所要時間(計)は、事務事業自主点検シートの「事業の目標、実施状況等」の「所要時間計」と一致すること。
- 5 具体的な業務の見直しの内容は、わかりやすく簡潔に記載すること。(県民から見て分かりやすい表現とすること。)なお、見直しがない場合は、「なし」と記載すること。
- 6 見直しに至った理由または見直しなしの理由は、詳細に記載すること。(具体的な業務プロセスごと、または細分化した業務ごとに記載すること。)
- 7 適宜、業務内容に合わせ、行を加除して記載すること。(複数ページ可)